

点検・評価 個別評価表の見方

平成 24 年度事業計画の該当箇所を記載しています。

13 校外学習施設のあり方の検討（総務課）

事業の背景・目的

平成 24 年度事業計画 第 1 部 目標Ⅳ-3

「三鷹市川上郷自然の村」は、市立小・中学校の児童・生徒が豊かな自然環境の中で学習活動を行う校外学習施設として、また学校が使用しない期間は、広く市民がレクリエーション活動を行う施設として利用されている。平成 18 年度から指定管理者制度を導入して効率的な管理運営を図っている。平成 24 年度は、今後の施設更新に多額の経費が見込まれるため、施設のあり方について検討を行う。

中長期的な事業の背景・目的を記載しています。

平成 24 年度の目標

平成 25 年度末に指定管理者による指定期間が満了することを踏まえ、庁内プロジェクト・チームを設置し、施設の老朽化による維持補修経費の見込みや利用状況の推移、経営状況等の検証を行い、今後の施設の適切なあり方を調査検討する。

【指標】

- ・ 検討報告書の作成

平成 24 年度事業計画と関連付けて、平成 24 年度単年度の目標を記載しています。指標はできるだけ具体的な項目となるように設定しています。

《平成 24 年度の取組状況》

平成 24 年 6 月に「市保有宿泊施設・校外学習施設のあり方検討チーム」を設置し、現在の施設の利用状況、管理運営経費の状況及び自然教室の実施状況等について、確認及び分析を行い、検討を重ねた。検討の結果、施設を廃止した場合、小・中学校の自然教室において、三鷹市にある学園単位の実施が困難になること、実施プログラムから、現在の指定管理期間が満了する平成 26 年 3 月には困難な状況にあることが明らかになった。その他、学校の自然教室での利用約 7,000 人のほか、少年スポーツ団体など団体・個人での利用約 1 万人に影響がある一方で、年間約 6,500 万円にのぼる指定管理料の支出や今後の施設・設備の更新経費が大きな負担となることも確認された。このように、自然教室の実施や利用者の影響を考慮すると、直ちに廃止の判断は困難であるが、平成 26 年度以降の指定管理期間を現行の 5 年から 3 年に短縮する中で、経営改善の検討を行うとともに、利益率の向上と一層の効果的な運営に取り組みつつ、継続して今後のあり方を検討することが妥当であるとの結論に至った。

平成 24 年度の取組状況を記載しています。

以上の内容より、平成 25 年度の方についての方向性を見出すこと

「B」・「C」とした場合は、事業が遅れた理由について《平成 24 年度の取組状況》に記載しています。

【達成度の目安】

A（90%以上）、B（70%以上 90%未満）、C（70%未満）

《平成 24 年度の事業の評価》

① 進捗状況に対する評価

A 計画通り（計画以上の進捗を含む。） B 少し遅れた C 大きく遅れた

② 成果に対する評価

A 目標が達成できた B おおむね目標が達成できた
C 達成できなかった

「C」とした場合は、目標を達成できなかった点について、《平成 24 年度の取組状況》に記載しています。

【達成度の目安】

A（90%以上）、B（60%以上 90%未満）、C（60%未満）

《今後の取組・課題》

調査検討結果を踏まえ、今後は、経営改善の検討を行うとともに、指定管理料の削減を図り、利益率の向上と一層の効果的な運営に取り組む。

平成 24 年度の実施状況を踏まえて、翌年度以降の取組と課題について記載しています。